

平成 27 年度 第三回宜野湾市市民協働推進協議会 会議録（要旨）

日時：平成 27 年 11 月 12 日（木）午後 7 時 00 分～午後 9 時 15 分

場所：宜野湾市役所 第一常任委員会室

出席：岩田直子委員長、宮城政一副委員長、稲垣暁委員、島袋盛子委員、宮道喜一委員、
宮城美由委員

欠席：新城清子委員、前田有得委員、国吉孝博委員
事務局（2 名）

開会

委員長 それでは、本日の会議を始めます。

議題 1. 「実施計画の策定」にあたっての今後の協議会進行スケジュール及び計画の内容について

～ 事務局より説明 ～

- ・ 前回協議会の振り返り。
- ・ スケジュール案の確認
- ・ 実施計画の各施策の概要の文言修正依頼。
- ・ 施策以外の計画書全体の項目についての協議方法について。

議題 2. 具体的施策の実施時期、施策相互の関連性について

～ A、B の 2 グループに分かれてワークショップを通しての検討～

- ・ A グループ：岩田委員長、宮城副委員長、島袋委員
- ・ B グループ：稲垣委員、宮道委員、宮城委員

グループワーク	20 分
休憩	5 分
共有（発表）	20 分
質疑応答・まとめ	20 分

【A グループの発表】

- ・ 3 年というスパンで一度見直しをする、そこをキーポイントに議論。
- ・ 初年度は情報発信、協働の周知のために動く。
- ・ 「コーディネーターの育成講座の開催」、「市民団体、企業、行政などのマッチング・交流会の開催」、「市役所内での市民協働研修実施」はお互い関わりを持つので、何年も繰り返し行い繋がりを太くする。
- ・ 3 年目に一度評価をすることで、協働の良い所、悪い所も含めて、様々な事例などの材料を出して、5 年目の事例集、中間組織の研究・育成に繋げていく。

【Bグループの発表】

- ・「活動情報の一元集約」のように、自治会活動情報、助成金情報など既存のシステム、制度、ネットワークの再整理、再評価を初年度に行うことで、ホームページへの掲載、情報誌の発行に繋がる。
- ・紙では伝わりにくい世代へは多面的なメディアを活用して伝えることを研究する。
- ・「活動情報の一元集約・情報窓口の設置」のスタート時は公的機関もでいい。
- ・中間支援組織はマッチングだけでなく、「活動情報の一元集約」からいろいろ介入していくので、第4の行政的（民間寄り）な全体をカバーできる組織を徐々に作っていく。
- ・コーディネーター育成も既にある民生委員のキャリア教育や、シニア・リタイヤ組が活躍するよう率先市民を育て、新しい市民を作っていく。
- ・「協働推進員制度の構築」は制度（型）から入っていくと難しい。1つのプロジェクトの度に結成と解散を繰り返す方法もある。
- ・「基本指針・施策の評価・公表」は時代に沿って随時的にやる必要がある。
- ・「市民団体、企業、教育機関、行政などのマッチング・交流会の開催」も広域・市外の人材と繋がる、異業種とも繋がる。
- ・1年目に情報発信関係を固めることで、次の中間支援組織がどうなるか、その上で「協働推進制度の構築」に繋がるのではないか。

【まとめ】

- ・既にあるもの、新しく作るもの。学ぶ場、活かす場。制度、使う人。市内、市外。実行、評価。官、民。など繋がりや串刺しはいろいろと見えてきた。
- ・情報発信に関することをすぐに実行することは一致。
- ・「自治会や地域単位での話し合いの場づくり」も早目に着手することは一致。
- ・情報発信もすぐに整理して発信するものと、掘り下げて具体化して発信するものもある。
- ・「市役所内での市民協働研修実施及び協働推進員制度の構築」については人材育成の研修に重きを置いたグループは2年目からの実施、必要に応じて推進員を制度化することに重きを置いたグループは4年目からと違いが出た。
- ・コーディネーター養成講座等は、民間だけでなく行政も一緒に学ぶことは、お互い共通認識。
- ・官民ともに学ぶはポイント。
- ・協働推進員制度は、取り組みを通して必要性を感じたときに制度化した方が、生きたものになる。
- ・5年間の成果を1つ形にすると次に繋がる。
- ・「市役所内での市民協働研修実施及び協働推進員制度の構築」の施策は、最初に研修を行いつつ、必要に応じて制度化していくという時系列の流れがいい。
- ・3年で1つの区切りとして評価を行うことは、共通認識。
- ・情報の発信など専門性のある担い手が専属でほしい。
- ・中間支援組織は、人材育成の繰り返しの部分にも関わるので同時期にあった方がいい。
- ・「活動情報の一元集約・窓口設置」では、情報を整理し、発信していく中で、適切な窓口が明らかになり、設置されていくという時系列の流れがいい。
- ・「活動情報の一元集約」は初年度、「情報窓口の設置」は3年目頃とに分けて考えた方がいい。

- ・マッチング・交流会はイベント的な顔合わせの場、軽いイメージを想定。
- ・交流会でコーディネーター養成講座を知らせることで受講に繋がるので繰り返すことが重要。
- ・マッチング・交流会で、3年間で何か協働ができれば助成金がもらえる等の受け皿があると更に推進されると思う。
- ・「自治会や地域単位での話し合いの場づくり」から地域課題が出てきて「マッチング・交流会」、「コーディネーター養成講座」のサイクルの中で解決される流れがでてくるといい。
- ・「自治会や地域単位での話し合いの場づくり」から地域課題が出てくる仕掛けをどうするのか、それを受ける養成講座の研修の組み立て方は大事。
- ・1年間に市民活動に投入された補助金の総額とそれに見合っただけで地域が良くなっているか今後問われる。成果を残すところにしか補助金は出ない。それが調査研究を含めた情報発信。
- ・助成金を出してどれだけ費用対効果があるかは評価の部分でやる必要がある。
- ・中間支援組織、担い手を早期に作ることで協働は進むので、2年ぐらいかけてでも作るのは必要。
- ・行政にはいろいろ縛りがあるので、第4の行政的なものは、それに縛られずにいろいろなことにアプローチできればいい。監査・評価も大事。
- ・評価をする第三者は市民になるといい、難しいが、そういう評価制度ができるといい。
- ・評価のための評価になりがちなので、どううまくやるかが問題。
- ・行政や企業、NPOは時代によって公共を担う領域が変化している、次の20年でどこを育てていくのかで、中間支援組織の役割も変わってくる。第4の行政のポジションが何なのか、模索していきたい。
- ・コンサル的ではなく、まちづくりのプロみたいなもの。
- ・地域での話し合いに出向き、課題が出てきてそれをみんなができることを持ち寄る仕掛けが宜野湾市に広がっていくイメージ。

委員長 お疲れ様です。これで本日の会議を終わります。

閉会

協議会での確認事項

- ・本日の内容を踏まえ、事務局で一つまとめて作成する。
- ・スケジュール案については了承
- ・各施策の概要の文言修正については、12月18日（金）までにメールで報告。
- ・施策以外の計画書全体の項目については、事務局がたたき台を作成。
- ・次回の第四回協議会の日程は、12月23日（水）午後7時に開催。